

大きな一歩

2002年2月 ジャスティン、スウィートと共にドッグセラピーをスタートして以来、どの様にしてこの効果を証明していくか、ずっと考えて来ました。

一例一例に、それぞれの特徴があるので、丁寧な症例報告(経時的変化の記録)が大切と考え症例を重ねて参りました。しかし、学会では症例報告は重視されず、エビデンスとしては評価されません。

私は、2008年以後、このドッグセラピーを介護保険に取り入れてもらうことを目標に活動しています。そんな中、今年の春、ある方から、厚生労働省の老人保健健康増進等事業での募集が有ると聞き、応募する事に決めました。それは、補助金も有り難いのですが、この報告書が介護保険改訂時に参考されると聞かされたからです。

経緯はこの辺りにして、このプロジェクトの内容について説明します。

テーマは「認知症の方へのリハビリ実施時のドッグセラピーの効果」です。

まず、対象の方を3群に分けます。(表1参照)

(1)PT、OTの呼びかけにてリハビリ可能な群

(2)PT、OTの呼びかけにてリハビリ不可能な群(言葉による意思疎通が出来ない人達)

次に、この(2)を更に2分します。

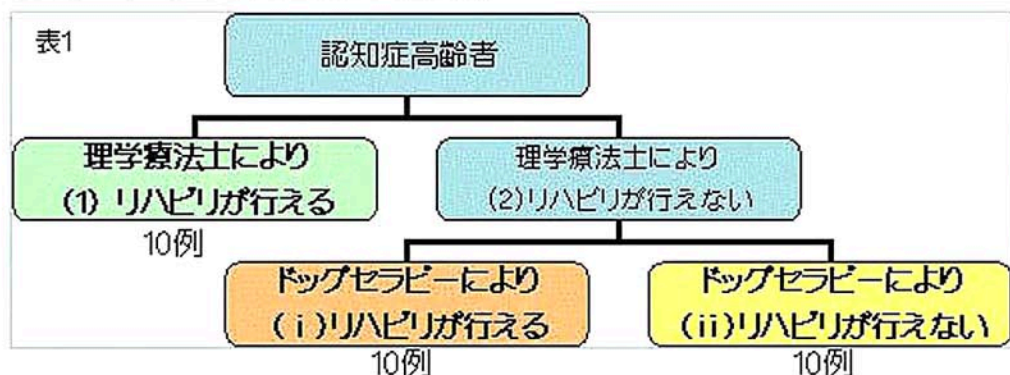
(i)セラピードッグが介在するとリハビリが可能となる群

(ii)セラピードッグが介在してもリハビリが不可能となる群

(1)・(i)・(ii)各10例、合計30例を行います。

30例のリハビリ実施回数は週3回とし、48回まで行い、(ii)のみ経過観察で行う。

リハビリの効果確認の為「バーセル指数」(表2)、意欲の変化を見る為「バイタリティー指数」(表3)をもって効果判定します。(バーセル指数、バイタリティー指数は、共にリハビリテーション学会で認められた指数)



このような内容になったのは、認知症の方で四肢の筋力は未だ残っているのに、言葉による指示が通らない、いわゆる「意思の疎通」が不可能な為、リハビリが出来ず、ADLが低下し寝たきりになる方が多くおられます。しかし、ドッグセラピーを行い、セラピードッグとの「関係作り」が上手くいくと、指示が通り、リハビリが可能になる方がおられるという経験から考えついたものです。

我が国では、認知症の方の群間比較は殆どなされてなく、ドッグセラピーに限らず、広く認知症治療という面から見ても、大変大きな一歩となるプロジェクトと確信しております。

明年3月に結果をまとめて厚生労働省に報告を致します。楽しみにしておいて下さい。

理事長 生長豊健

表2

Barthel Index
機能的評価

実施項目	点数	質問内容
1 食事	10 5 0	自立、自給具などの器を用、咀嚼の補助に食べさせる 部分介助とはえば、おかしを切って提供してあげる 全介助
2 車椅子から ベッドへの移動	15 10 5 0	自立、プーロー、フットストの補助を含む移行自立を含む 患者の部分介助または看護士による 座ること以外にできる移行自立全介助 全介助または不可
3 歩行	5 0	自立(杖、歩行、歩行器、歩行杖) 部分介助または不可
4 トイレ動作	10 5 0	自立、補助具(便器、便器、便器)を用、 部分介助、体を支える、衣服、履物に介助を要する 全介助または不可
5 入浴	5 0	自立 部分介助または不可
6 歩行	15 10 5 0	歩行、杖、歩行器、歩行杖、歩行器の補助を含む 歩行、杖、歩行器、歩行杖の補助を含む 歩行器の補助、車椅子にて歩行以上の歩行可能 上記以外
7 服装着脱	10 5 0	自立、手すりなどの器を用、 部分介助または看護士による 不可
8 着替え	10 5 0	自立、靴、フットナー、器具の補助を含む 部分介助、歩行器の補助、歩行器以上の歩行 上記以外
9 歩行のコントロール	10 5 0	歩行なし、歩行器、歩行器の補助を含む 歩行、杖、歩行器、歩行杖の補助を含む 歩行器の補助、歩行器以上の歩行 上記以外
10 歩行のコントロール	10 5 0	歩行なし、歩行器の補助を含む 歩行、杖、歩行器、歩行杖の補助を含む 歩行器の補助、歩行器以上の歩行 上記以外

表3

Vitality Index
意欲の指標

実施項目	点数	質問内容
1 起床 (Wake up)	2 1 0	いつも起床に遅れている 遅くないと遅くないとがある 自分から起床することはない
2 意思伝達 (Communication)	2 1 0	自分から意思を伝える、意欲がある 聴き、聞きかけに反応が返る 返らない
3 食事 (Feeding)	2 1 0	自分から進んで食べよとする 促されると食べよとする 食事に興味がない、全く食べよとしない
4 排泄 (On and Toilet)	2 1 0	いつも自分で排泄物を出す、あるいは自分で排泄物を伝える 時々、尿意を感じ伝える 排泄に全く興味がない
5 リハビリ参加 (Participation)	2 1 0	自らリハビリ、リハビリに積極的に参加することも求める 促されて参加 参加、興味心

～アニマルセラピーで生きていきたい！～

動物福祉部

私が「アニマルセラピー」という言葉に出会ったのはちょうど20歳、大学生の頃でした。出会った瞬間『この世界で生きていきたい！』と身が震える程の衝撃が走ったのを今でも覚えています。

ただ当時(今から10年前)は情報もほとんどなく、勿論就職先なんてありません。単純発想で「ないならつくらなきゃ！」と思った私は企業に就職してビジネスを勉強しようと思立ちます。その後「現場も見なきゃ！」とがむしゃらに走り続けるうちに、「アニマルセラピーを生きて行ける業界にしたい」という夢を抱くようになりました。まだまだ夢半ばの私がここで皆さんに言える事などないのですが、一つだけ思っていることがあります。

それは、これからこの分野に必要なのは「わかりやすさ」ではないかという事です。専門的に言えば言葉の定義もありますし、介護高齢者ドッグセラピー普及協会さんのように既に自分の団体の「専門」を明確にしてわかりやすい目的や対象を提示されている所もあります。ですが、一般的に「アニマルセラピー」と聞いて抱くイメージはまだまだとても曖昧なものではないでしょうか。

言葉の定義はさておき、癒しから治療、教育まで動物を介在させる活動は色々あっていいと思います。ただそれを受ける側の人たちがきちんと理解し、選択できるような環境をつくっていかないといつまでたっても生きて行ける分野にはならない気がします。

個人的にアニマルセラピーを受けてみたいと思った人が受けられる環境がなかったり、アニマルセラピーに興味を持った人が将来の見通しが立たないという理由でこの分野から離れていったり・・・現状起きているこういう機会ロスは本当に勿体ないと思います。

そういった人たちの為にも、これからも夢をあきらめず追い続けていきたい。私にできる事はほんのわずかですが、この分野に携わる方々の情熱は相当のもの。皆が知恵を出し合ってよりよい環境になって行くよう、私も陰ながら頑張りたいと思います。

高山淳子氏

<略歴>

岡山市出身、大学卒業後ベンチャー企業へ就職するも半年で倒産、オリックス株式会社に転職、3年間の営業経験を経て渡米しspca LAにてボランティアをしながら、動物介在療法、FEADプログラムに参加、帰国後はNPO法人J.S.D.Oにて保護活動の傍ら犬との生活や訓練理論、動物介在活動/療法を実践で学ぶ、白藤氏、TeoMariscal氏に師事、トレーナーライセンス取得後結婚、現在は出産を控えて一時活動をお休み中、

<資格>

NPO法人 日本ソーシャルサービスドッグ協会認定セラピードッグハンドラー
Foundation Bocalan認定 ドッグトレーナー



トレーニング

トレーニングには、行動に対し褒める時、してほしくない行動をした場合、怒ったり体罰を与えたりし、してほしい行動を覚えさせるトレーニングなど様々な方法があります。

体罰を与える訓練だと...

体罰を与える度にストレスが溜まり、トレーニングをする事が嫌になる。



セラピー中に弱い立場である利用者様へ、その嫌な感情をぶつけてしまうかもしれない。例えば、急に何かをされた時に咬む、引っ掻く等

褒める訓練だと!!

褒めて伸ばす方法は、ドッグに自分からやる気を出させ、何をすれば褒めてもらえるか考え、人と一緒に楽しく行える。人と訓練すること、何かをする事が楽しくて、好きになる。このような理由から、当施設では体罰を与えるのではなく、正しい行動をすれば褒めて報酬(ごほうび)をあげて伸ばすトレーニングを行っています。

信頼関係を築く会話の第一歩!!

アイコンタクト

- ・信頼関係を築くためのドッグとの会話!
- ・トレーニングの基本であり、とても重要!
 - 自分に意識を向けさせる。
 - ※自分へ集中していない時に、指示を出しても無意味。
- ・行動を判断するきっかけ
 - アイコンタクトをとりトレーナーにその行動を行ってもよいかの確認をする。
- ・どんなところでもアイコンタクトがとれるように、様々な環境下でトレーニングを行う。



秋桜「真心」

(お問い合わせ)

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

<http://www.therapydog.jp>